

OMX メディアコンポーネント

ユーザーズマニュアル Dolby(R) Digital デコーダ編

本資料に記載の全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス エレクトロニクスは、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。
ルネサス エレクトロニクスのホームページなどにより公開される最新情報をご確認ください。

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りがないことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社がその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

商標について

- Linux® は, Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ARM®は、ARM 社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- Android is a trademark of Google Inc. Use of this trademark is subject to Google Permissions.
- その他, 記載の会社名, 製品名などは, 各社の登録商標または商標です。
- 本文中では登録商標または商標の記号(® または ™)を省略しています。

目次

1. 概要	3
1.1. 本書の概要	3
1.2. Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネント概要および本書の範囲	3
1.3. 関連文書	4
1.4. 用語集	4
1.5. Role 名とコンポーネント名	4
2. 機能	5
2.1. 詳細機能	5
2.1.1. デコード機能	5
2.1.2. ポート情報変更通知機能	6
2.2. ポート	6
3. 入出力データフォーマット	7
3.1. バッファペイロード	7
3.2. 入力バッファのデータフォーマット	8
3.3. 出力バッファのデータフォーマット	9
4. API リファレンス	12
5. インデックス	13
5.1. Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの標準インデックス	13
5.2. Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの拡張インデックス	14
5.3. 各 OpenMAX IL Macro 関数で設定できるインデックス	14
6. 構造体	15
6.1. OMX_AUDIO_PORTDEFINITIONTYPE	16
6.2. OMX_AUDIO_PARAM_PORTFORMATTYPE	17
6.3. OMXR_MC_AUDIO_PARAM_DDTYPE	18
6.4. OMX_AUDIO_PARAM_PCMMODETYPE	22
6.5. 構造体のメンバの中で特有の使い方をするもの	24
6.5.1. バッファフラグ(nFlags)	24
7. イベント	25
8. 使用メモリ	26

図目次

Figure 1-1 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントのソフトウェア構成と説明範囲	3
Figure 3-1 入力バッファのデータ格納形式	7
Figure 3-2 出力バッファのデータ格納形式 (1 フレーム単位)	7
Figure 3-3 出力バッファのデータ格納形式 (連続)	7
Figure 3-4 入力バッファのデータフォーマット	8
Figure 3-5 入力フレームのフォーマット	8
Figure 3-5 出力バッファのデータフォーマット	9
Figure 3-6 出力チャネルによるデータフォーマット	10

表目次

Table 1-1 関連文書一覧	4
Table 1-2 用語集	4
Table 1-3 Role 名とコンポーネント名	4
Table 2-1 対応する規格及び機能	5
Table 2-2 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントのポート	6
Table 3-1 チャネル設定と出力 PCM チャネルの関係	11
Table 5-1 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントが使用できるインデックス一覧	13
Table 5-2 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントが使用する拡張インデックス一覧	14
Table 5-3 各 OpenMAX IL Macro 関数で設定できるインデックス	14
Table 6-1 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの構造体	15
Table 6-2 構造体のメンバの中で特有の使い方をするもの	24
Table 6-3 入出力ポートのバッファフラグ	24
Table 7-1 イベント発生条件	25
Table 7-2 マスク可能な情報一覧	25
Table 8-1 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントが使用する主なメモリ	26

1. 概要

1.1. 本書の概要

本書は、OMX メディアコンポーネントのユーザーズマニュアルです。Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの仕様について説明します。

本書は関連文書[1]および関連文書[2]とあわせて読んでください。

1.2. Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネント概要および本書の範囲

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントのソフトウェア構成と説明範囲を「Figure 1-1」に示します。Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントは OpenMAX IL の共通機能を提供する OMX Media Component Common Library とオーディオ処理の共通機能を提供する OMX Media Component Audio Common Library、Dolby(R) Digital デコーダの機能を実現する OMX Media Component Dolby(R) Digital Decoder Library から構成されます。OMX Media Component Dolby(R) Digital Decoder Library は ARM 5.1ch Dolby(R) Digital Decode Middleware を制御することにより、コーデック処理を実現します。

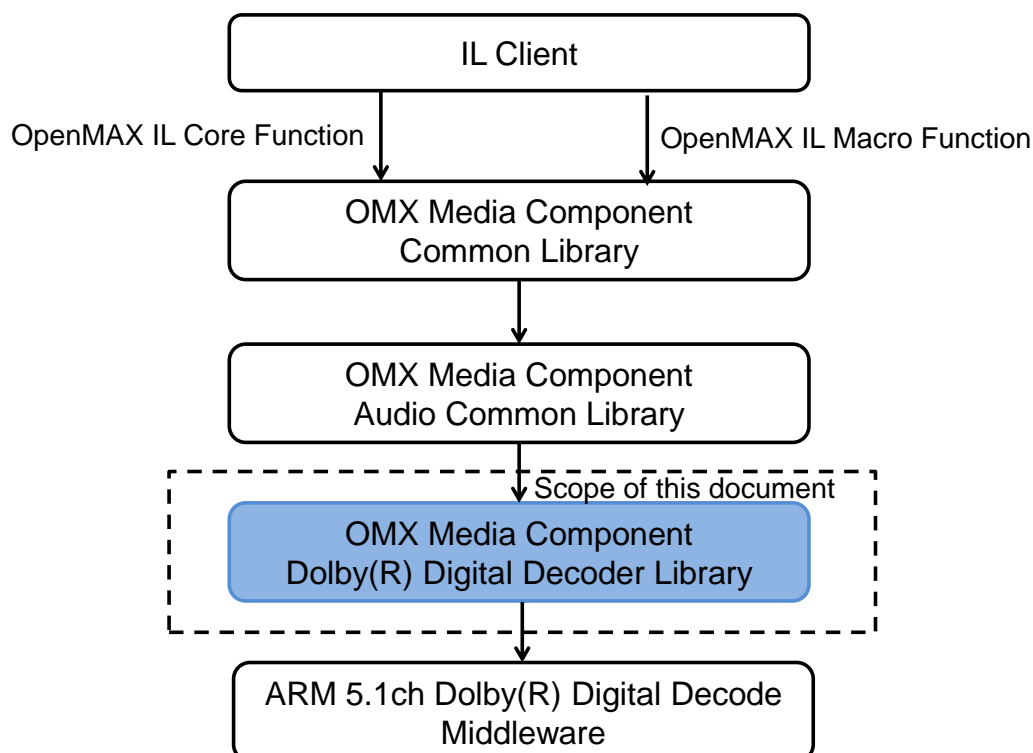


Figure 1-1 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントのソフトウェア構成と説明範囲

1.3. 関連文書

参考資料および関連文書を「Table 1-1」に示します。

Table 1-1 関連文書一覧

項番	文書名	備考
[1]	OMX メディアコンポーネント ユーザーズマニュアル 共通編	
[2]	OMX メディアコンポーネント ユーザーズマニュアル オーディオ共通編	
[3]	OpenMAX Integration Layer Application Programming Interface Specification Version 1.1.2, September 1, 2008	http://www.khronos.org/registry/omxil/specs/OpenMAX_IL_1_1_2_Specification.pdf

1.4. 用語集

本書で使用する用語について、「Table 1-2」に示します。

Table 1-2 用語集

用語	略称	概要説明
Audio Port Base	APB	オーディオメディアコンポーネントのポート・インデックスのベース値です。このベース値にオフセット値を加算することで、入力ポート及び出力ポートのポート・インデックス値を求めます。
OpenMAX IL	-	Khronos Group が規定しているオープンな API で、グラフィック、オーディオ、画像ライブラリなどのコーデックに広く利用されているプリミティブなメディア処理へのアクセスを標準化したものです。
コンポーネント	-	OpenMAX IL 仕様書における Component を指します。
メディアコンポーネント	MC	マルチメディア処理を行うコンポーネントであり、OpenMAX IL で定義されている Component に相当します。
IL Client	-	OpenMAX IL Core およびコンポーネントの機能を利用するソフトウェアを指します。

1.5. Role 名とコンポーネント名

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの Role 名とコンポーネント名を「Table 1-3」に示します。

Table 1-3 Role 名とコンポーネント名

Role 名	コンポーネント名
audio_decoder.dd	OMX.RENESAS.AUDIO.DECODER.DD

2. 機能

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントは、Dolby® Digital (Dolby AC-3)規格で圧縮されたデータをデコードする機能を提供するメディアコンポーネントです。

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントは、入力バッファに圧縮されたデータが格納されるとデコード処理を行い、デコードして得られたリニア PCM データを出力バッファに格納します。

2.1. 詳細機能

2.1.1. デコード機能

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントが対応している規格および機能を以下に示します。

Table 2-1 対応する規格及び機能

符号化方式	ATSC Standard: Digital Audio Compression Standard (AC-3), Advanced Television System Committee, Washington, D.C. Doc. A/52, Dec. 20, 1995 Dolby Laboratories: Annex D (Informative) Dolby Digital (AC-3) Extended Bits Syntax, Version 1.1
入力フォーマット	Dolby® Digital 符号化ビットストリーム (Dolby® Digital Plus 符号化ビットストリームは非対応)
入力チャンネル	1 チャンネル : 1/0(C) 2 チャンネル : 2/0(L,R) , 1+1(dual-monaural) 3 チャンネル : 3/0(L,C,R) , 2/1(L,R,S) 4 チャンネル : 3/1(L,C,R,S) , 2/2(L,R,Ls,Rs) 5 チャンネル : 3/2(L,C,R,Ls,Rs) LFE チャンネル : ON or OFF (注 1)
入力サンプリング周波数	32 / 44.1 / 48 kHz
入力ビットレート	32 / 41 / 48 / 56 / 64 / 80 / 96 / 112 / 128 / 160 / 192 / 224 / 256 / 320 / 384 / 448 / 512 / 576 / 640 kbps
出力フォーマット	16 ビットリニア PCM (チャンネルインターリーブ形式)
出力チャンネル	最大 5.1 チャンネル(Down Mix 機能あり)
出力サンプリング周波数	入力したサンプリング周波数と同じ
1 フレームのサンプル数	1536 サンプル

(注1) 「/」は、前方/後方スピーカのチャンネル数となります。

2.1.2. ポート情報変更通知機能

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントは、入力データをデコードすることにより、「出力サンプリング周波数」、「出力チャンネル数」、「出力チャンネルマッピング」の情報が変化した場合にイベントを発行します。詳細は7章を参照してください。

2.2. ポート

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントは、入力ポート1つと出力ポート1つを持ちます。

入力ポートには圧縮データを入力する入力バッファがあり、出力ポートにはリニア PCM データを出力する出力バッファがあります。

Table 2-2 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントのポート

コンポーネント	ポート・インデックス	タイプ
Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネント	APB+0	入力ポート
	APB+1	出力ポート

3. 入出力データフォーマット

3.1. バッファペイロード

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの入力バッファへのデータの格納形式を「Figure 3-1」に示します。図中の「fn」は圧縮データの順番（フレーム番号）を示します。Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントへの圧縮データの入力、フレーム単位で格納します。フレーム単位であれば任意数のフレームを1つの入力バッファに格納可能です。ただし、1フレームを複数の入力バッファに分けて格納することはできません。

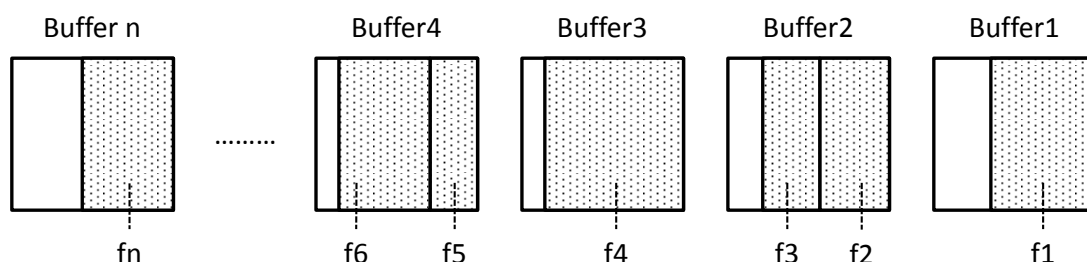


Figure 3-1 入力バッファのデータ格納形式

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの出力バッファへのデータの格納形式を「Figure 3-2」「Figure 3-3」に示します。Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントは、デコードしたリニア PCM データを1フレーム単位もしくは、連続してバッファへ格納することが可能です。ただし、リニア PCM の1サンプルおよび、同時刻のリニア PCM サンプル(全チャネル)は同じバッファに格納されます。

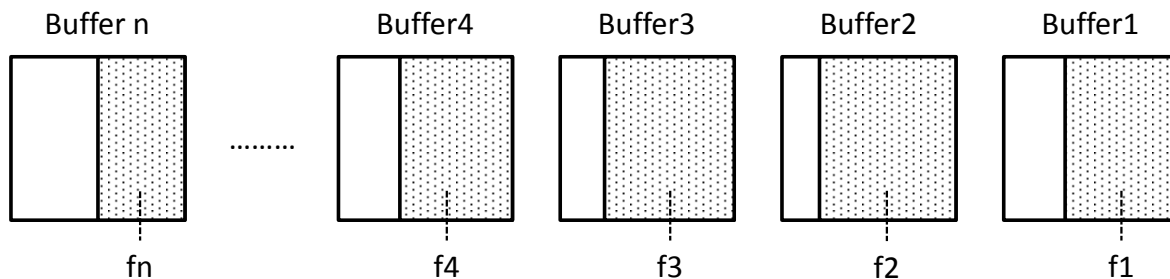


Figure 3-2 出力バッファのデータ格納形式（1 フレーム単位）

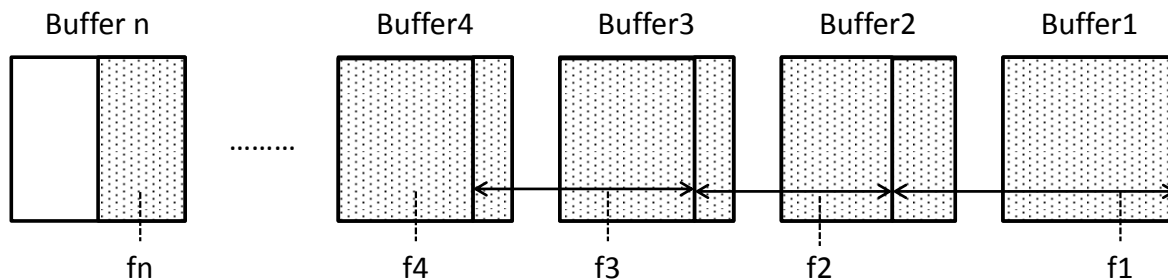


Figure 3-3 出力バッファのデータ格納形式（連続）

3.2. 入力バッファのデータフォーマット

入力バッファのデータフォーマットを「Figure 3-4」に示します。ストリームデータのフレームをバッファに格納し、データサイズを OMX_BUFFERHEADERTYPE 構造体の nFilledLen に指定します。

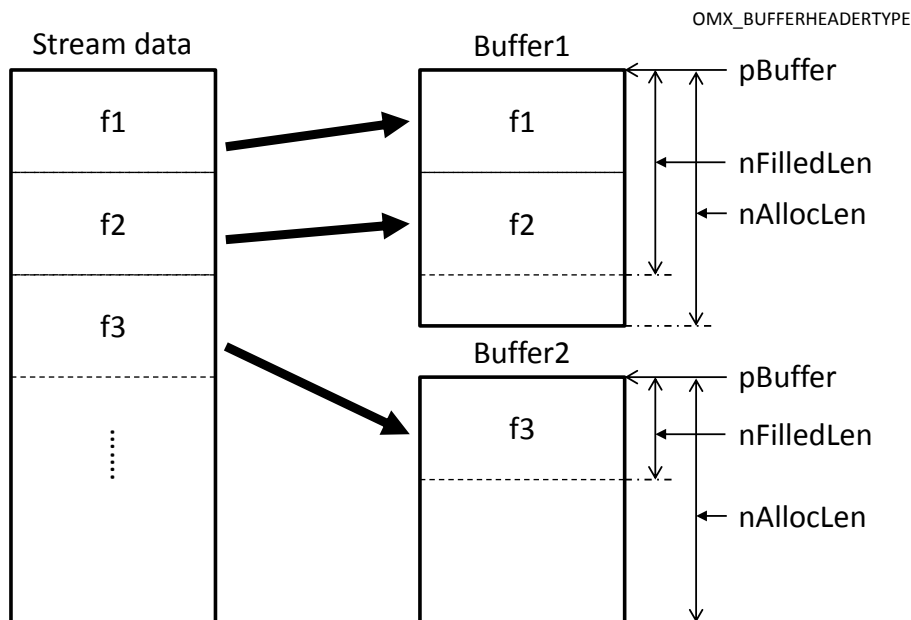


Figure 3-4 入力バッファのデータフォーマット

入力バッファに格納するフレームデータのフォーマットを「Figure 3-5」に示します。リトルエンディアン形式で入力してください。

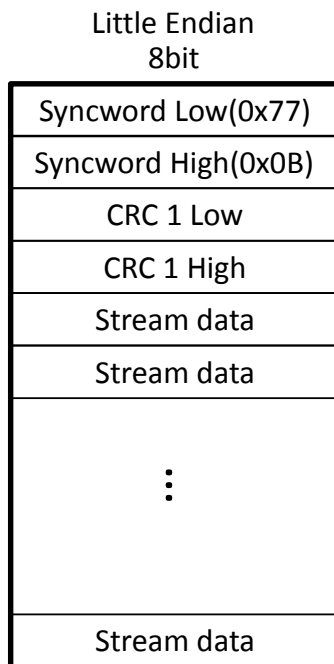


Figure 3-5 入力フレームのフォーマット

3.3. 出力バッファのデータフォーマット

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントでは、「Figure 3-6」に示すように、OMX_BUFFERHEADERTYPE 構造体のメンバで示されるアドレスから nFilledLen で示されるサイズ分のデータが格納されます。

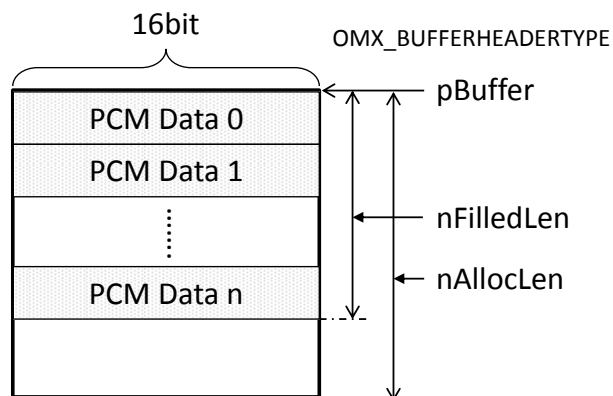


Figure 3-6 出力バッファのデータフォーマット

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントでは、出力チャンネルによって PCM データの配置が異なります。出力チャンネルごとのフォーマットを「Figure 3-7」に示します。なお、LFE 付きデータおよび、3 チャンネルから 5.1 チャンネルのデータ出力時は 6 チャンネル出力形式となり、無効な PCM チャンネル位置には無音が挿入されます。

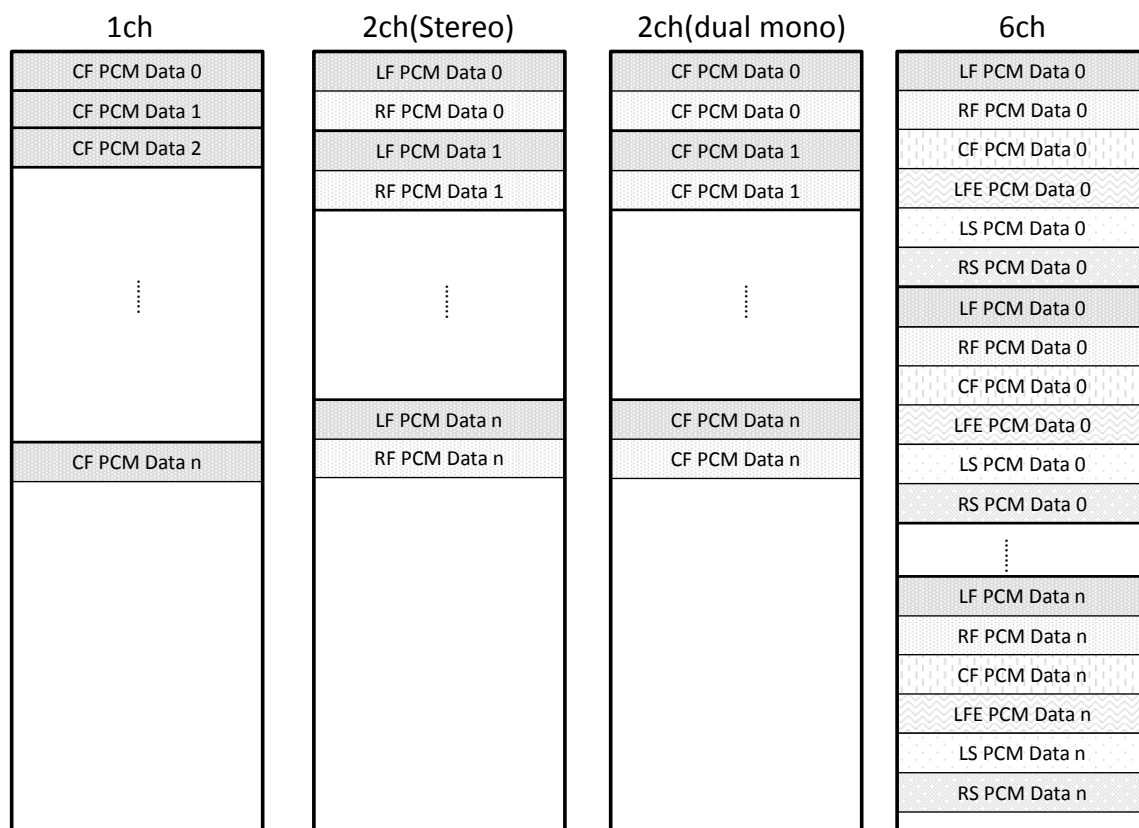


Figure 3-7 出力チャンネルによるデータフォーマット

入カストリームチャンネルと、チャンネル設定(OMXR_MC_AUDIO_PARAM_DDTYPE 構造体メンバ eChannelMode)、LFE 設定(OMXR_MC_AUDIO_PARAM_DDTYPE 構造体メンバ bLfeMode)による、出力 PCM データチャンネルの関係を Table 3-1 に示します。

Table 3-1 チャンネル設定と出力 PCM チャンネルの関係

入カストリーム チャンネル 設定値		1	2/0	1+1	3/0	2/1	3/1	2/2	3/2
1/0	LFE 無効	1ch	1ch	1ch	1ch	1ch	1ch	1ch	1ch
	LFE 有効	6ch (1/0)	6ch (1/0)	6ch (1/0)	6ch (1/0)	6ch (1/0)	6ch (1/0)	6ch (1/0)	6ch (1/0)
2/0	LFE 無効	2ch (stereo)	2ch (stereo)	2ch (dual mono)	2ch (stereo)	2ch (stereo)	2ch (stereo)	2ch (stereo)	2ch (stereo)
	LFE 有効	6ch (2/0)	6ch (2/0)	6ch (1+1)	6ch (2/0)	6ch (2/0)	6ch (2/0)	6ch (2/0)	6ch (2/0)
3/2	LFE 無効	6ch (1/0)	6ch (2/0)	6ch (1+1)	6ch (3/0)	6ch (2/2) (注 1)	6ch (3/2) (注 1)	6ch (2/2)	6ch (3/2)
	LFE 有効	6ch (1/0)	6ch (2/0)	6ch (1+1)	6ch (3/0)	6ch (2/2)	6ch (3/2)	6ch (2/2)	6ch (3/2)

(注 1)2/1,3/1 のセンターサラウンドは左右サラウンドに振り分けられます。

なお、LFE 設定が有効の場合、入カストリームに LFE が含まれていれば、LFE が出力されます。

4. API リファレンス

関連文書[2]を参照してください。

5. インデックス

5.1. Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの標準インデックス

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントが使用できる標準のインデックス一覧を「Table 5-1」に示します。

Table 5-1 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントが使用できるインデックス一覧

インデックス		対応する構造体名
説明		
OMX_IndexParamAudioInit		OMX_PORT_PARAM_TYPE 構造体
	関連文書[1]を参照してください	
OMX_IndexParamVideoInit		OMX_PORT_PARAM_TYPE 構造体
	関連文書[1]を参照してください	
OMX_IndexParamImageInit		OMX_PORT_PARAM_TYPE 構造体
	関連文書[1]を参照してください	
OMX_IndexParamOtherInit		OMX_PORT_PARAM_TYPE 構造体
	関連文書[1]を参照してください	
OMX_IndexParamStandardComponentRole		OMX_PARAM_COMPONENTROLETYPE 構造体
	関連文書[1]を参照してください	
OMX_IndexParamCompBufferSupplier		OMX_PARAM_BUFFERSUPPLIERTYPE 構造体
	関連文書[1]を参照してください	
OMX_IndexParamPortDefinition		OMX_PORTDEFINITIONTYPE 構造体
	関連文書[1]、関連文書[2]を参照してください	
OMX_IndexParamAudioPortFormat		OMX_AUDIO_PARAM_PORTFORMATTYPE 構造体
	関連文書[2]を参照してください	
OMX_IndexParamAudioPcm		OMX_AUDIO_PARAM_PCMMODETYPE 構造体
	PCMに関する各種情報を設定・取得できます。	

5.2. Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの拡張インデックス

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントが使用できるインデックスのうち、拡張したインデックスの一覧を「Table 5-2」に示します。

Table 5-2 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントが使用する拡張インデックス一覧

インデックス (拡張インデックス名)	対応する構造体名
説明	
OMXR_MC_IndexParamAudioOutputUnit (OMX.RENESAS.INDEX.PARAM.AUDIO.OUTPUTUNIT)	OMXR_MC_AUDIO_PARAM_OUTPUTUNITTYPE 構造体
関連文書[2]を参照してください	
OMXR_MC_IndexParamAudioPortSettingMask (OMX.RENESAS.INDEX.PARAM.AUDIO. PORTSETTINGSEVENTMASK)	OMXR_MC_AUDIO_PARAM_PORTSETTINGSEVENTMASK TYPE 構造体
関連文書[2]を参照してください	
OMXR_MC_IndexParamAudioDd (OMX.RENESAS.INDEX.PARAM.AUDIO.DD)	OMXR_MC_AUDIO_PARAM_DDTYPE 構造体
6.3 章を参照してください	

5.3. 各 OpenMAX IL Macro 関数で設定できるインデックス

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントのインデックスに対し、どの OpenMAX IL Macro 関数で設定できるか、および設定可能なポート・インデックスを「Table 5-3」に示します。

Table 5-3 各 OpenMAX IL Macro 関数で設定できるインデックス

Index	Get/SetParameter		Get/SetConfig		Port Index	
	Get	Set	Get	Set	APB+0	APB+1
OMX_IndexParamAudioInit	x	x	-	-	-	-
OMX_IndexParamVideoInit	x	x	-	-	-	-
OMX_IndexParamImageInit	x	x	-	-	-	-
OMX_IndexParamOtherInit	x	x	-	-	-	-
OMX_IndexParamStandardComponentRole	x	x	-	-	-	-
OMX_IndexParamCompBufferSupplier	x	x	-	-	x	x
OMX_IndexParamPortDefinition	x	x	-	-	x	x
OMX_IndexParamAudioPortFormat	x	x	-	-	x	x
OMXR_MC_IndexParamAudioDd	x	x	-	-	x	-
OMX_IndexParamAudioPcm	x	x	-	-	-	x
OMXR_MC_IndexParamAudioOutputUnit	x	x	-	-	-	x
OMXR_MC_IndexParamAudioPortSettingMask	x	x	-	-	-	x

x : 有効
- : 無効

6. 構造体

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの構造体の一覧を「Table 6-1」に示します。

Table 6-1 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントの構造体

構造体名	参照
OMX_AUDIO_PORTDEFINITIONTYPE	6.1 章
OMX_PARAM_COMPONENTROLETYPE	関連文書[1]
OMX_PARAM_BUFFERSUPPLIERTYPE	関連文書[1]
OMX_AUDIO_PARAM_PORTFORMATTYPE	6.2 章
OMXR_MC_AUDIO_PARAM_DDTYPE	6.3 章
OMX_AUDIO_PARAM_PCMMODETYPE	6.4 章
OMXR_MC_AUDIO_PARAM_OUTPUT_UNITTYPE	関連文書[2]
OMXR_MC_AUDIO_PARAM_PORTSETTINGSEVENTMASKTYPE	関連文書[2]

本章の構造体説明における、メンバ説明欄の読み方を以下に示します。

- ✓ インデックスに対応している構造体のメンバ説明

【メンバ】

メンバ名	Get	Set
メンバ名を示します。	OMX_GetParameter、 OMX_GetConfig で指定された場合のメンバの属性を示します。 “R”と記述されている場合は本メンバから値を取得できます。 “W”と記述されている場合は本メンバに値を指定してください。	OMX_SetParameter、 OMX_SetConfig で指定された場合のメンバの属性を示します。 “W”と記述されている場合は、本メンバに値を指定してください。 “—”と記述されている場合は本メンバの値は無視されます。本メンバに指定された値は設定に反映されません。

6.1. OMX_AUDIO_PORTDEFINITIONTYPE

【構造体】 関連文書[3] 4.1.5 を参照してください。

【機能】 関連文書[3] 4.1.5 を参照してください。

【メンバ】

メンバ名	Get	Set
cMIMETYPE	R	-
pNativeRender	R	-
bFlagErrorConcealment	R	-
eEncoding	R	-

【詳細】

cMIMETYPE

設定可能値	-
取得可能値	NULL
初期値	NULL
備考	本メンバは非対応です。

pNativeRender

設定可能値	-
取得可能値	NULL
初期値	NULL
備考	本メンバは非対応です。

bFlagErrorConcealment

設定可能値	-
取得可能値	OMX_FLASE
初期値	OMX_FLASE
備考	本メンバは非対応です。

eEncoding

設定可能値	-	
取得可能値	nPortIndex	値
	APB+0	OMXR_MC_AUDIO_CodingDD
	APB+1	OMX_AUDIO_CodingPCM
初期値	nPortIndex	値
	APB+0	OMXR_MC_AUDIO_CodingDD
	APB+1	OMX_AUDIO_CodingPCM
備考	-	

6.2. OMX_AUDIO_PARAM_PORTFORMATTYPE

【構造体】 関連文書[3] 4.1.6 を参照してください。

【機能】 関連文書[3] 4.1.6 を参照してください。

【メンバ】

メンバ名	Get	Set
nSize	W	W
nVersion	R	-
nPortIndex	W	W
nIndex	W	-
eEncoding	R	-

【詳細】

nSize

設定可能値	OMX_AUDIO_PARAM_PORTFORMATTYPE 構造体のサイズ (バイト)
取得可能値	-
初期値	-
備考	-

nVersion

設定可能値	-
取得可能値	OpenMAX IL スペックバージョン(1.1.2)
初期値	OpenMAX IL スペックバージョン(1.1.2)
備考	-

nPortIndex

設定可能値	APB+0 APB+1
取得可能値	-
初期値	-
備考	-

nIndex

設定可能値	nPortIndex	値
	APB+0	0
	APB+1	0
取得可能値	-	
初期値	-	
備考	-	

eEncoding

設定可能値	-		
取得可能値	nPortIndex	nIndex	値
	APB+0	0	OMXR_MC_AUDIO_CodingDD
	APB+1	0	OMX_AUDIO_CodingPCM
初期値	nPortIndex	nIndex	値
	APB+0	0	OMXR_MC_AUDIO_CodingDD
	APB+1	0	OMX_AUDIO_CodingPCM
備考	-		

6.3. OMXR_MC_AUDIO_PARAM_DDTYPE

【構造体】 typedef struct OMXR_MC_AUDIO_PARAM_DDTYPE{
 OMX_U32 nSize;
 OMX_VERSIONTYPE nVersion;
 OMX_U32 nPortIndex;
 OMXR_MC_AUDIO_DD_KARAOKEMODE eKaraokeMode;
 OMXR_MC_AUDIO_DD_COMPRESSIONMODE eCompressionMode;
 OMXR_MC_AUDIO_DD_CHANNELMODE eChannelMode;
 OMXR_MC_AUDIO_DD_STEREO MODE eStereoMode;
 OMX_BOOL bLfeMode;
 OMXR_MC_AUDIO_DD_DUALMONOMODE eDualMonoMode;
 OMX_U32 nDynamicRangeScaleFactorHi;
 OMX_U32 nDynamicRangeScaleFactorLow;
 } OMXR_MC_AUDIO_PARAM_DDTYPE;

【機能】 Dolby® Digital パラメータ情報構造体

メンバ名	Get	Set
nSize	W	W
nVersion	R	-
nPortIndex	W	W
eKaraokeMode	R	W
eCompressionMode	R	W
eChannelMode	R	W
eStereoMode	R	W
bLfeMode	R	W
eDualMonoMode	R	W
nDynamicRangeScaleFactorHi	R	W
nDynamicRangeScaleFactorLow	R	W

【詳細】

nSize

設定可能値	OMXR_MC_AUDIO_PARAM_DDTYPE 構造体のサイズ (バイト)
取得可能値	-
初期値	-
備考	-

nVersion

設定可能値	-
取得可能値	OpenMAX IL スペックバージョン(1.1.2)
初期値	OpenMAX IL スペックバージョン(1.1.2)
備考	-

nPortIndex

設定可能値	APB+0
取得可能値	-
初期値	-
備考	-

eKaraokeMode

設定可能値	OMXR_MC_AUDIO_DD_VocalNo OMXR_MC_AUDIO_DD_VocalLeft OMXR_MC_AUDIO_DD_VocalRight OMXR_MC_AUDIO_DD_VocalBoth	
取得可能値	設定値	
初期値	OMXR_MC_AUDIO_DD_VocalBoth	
備考	値	説明
	OMXR_MC_AUDIO_DD_VocalNo	ボーカルを再生しない
	OMXR_MC_AUDIO_DD_VocalLeft	左側のボーカル(V1)のみ再生する
	OMXR_MC_AUDIO_DD_VocalRight	右側のボーカル(V2)のみ再生する
	OMXR_MC_AUDIO_DD_VocalBoth	両方(V1,V2)のボーカルを再生する

eCompressionMode

設定可能値	OMXR_MC_AUDIO_DD_NoDigitalDialogNormalization OMXR_MC_AUDIO_DD_DigitalDialogNormalization OMXR_MC_AUDIO_DD_LineOut OMXR_MC_AUDIO_DD_RF	
取得可能値	設定値	
初期値	OMXR_MC_AUDIO_DD_LineOut	
備考	値	説明
	OMXR_MC_AUDIO_DD_NoDigitalDialogNormalization	Custom モード (no digital dialog normalization)
	OMXR_MC_AUDIO_DD_DigitalDialogNormalization	Custom モード(digital dialog normalization)
	OMXR_MC_AUDIO_DD_LineOut	Line out モード
	OMXR_MC_AUDIO_DD_RF	RF モード

eChannelMode

設定可能値	OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode1_0 OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode2_0 OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode3_2	
取得可能値	設定値	
初期値	OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode2_0	
備考	値	説明
	OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode1_0	1 チャンネル(C)で出力
	OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode2_0	2 チャンネル(L,R もしくは Ch1,Ch2)で出力
	OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode3_0	3 チャンネル(L,C,R)で出力(非対応)
	OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode2_1	3 チャンネル(L,R,S)で出力(非対応)
	OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode3_1	4 チャンネル(L,C,R,S)で出力(非対応)
	OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode2_2	4 チャンネル(L,R,Ls,Rs)で出力(非対応)
	OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode3_2	5 チャンネル(L,C,R,Ls,Rs)で出力
	L:L-channel, R:R-channel, C:Center channel, S: Surround channel, Rs: Surround R-channel, Ls: Surround L-channel	
	eChannelMode が OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode3_2 の場合、「Figure 3-7」の 6 チャンネル出力フォーマットになります。	

eStereoMode

設定可能値	OMXR_MC_AUDIO_DD_AutoDetect OMXR_MC_AUDIO_DD_DolbySurroundCompatible OMXR_MC_AUDIO_DD_Stereo	
取得可能値	設定値	
初期値	OMXR_MC_AUDIO_DD_AutoDetect	
備考	値	説明
	OMXR_MC_AUDIO_DD_AutoDetect	自動設定モード
	OMXR_MC_AUDIO_DD_DolbySurroundCompatible	Dolby® Surround Compatible モード
	OMXR_MC_AUDIO_DD_Stereo	ステレオモード
	ステレオ出力の場合のダウンミックス仕様を指定します。 eChannelMode が OMXR_MC_AUDIO_DD_ChannelMode2_0 の時に有効です。	

bLfeMode

設定可能値	OMX_TRUE OMX_FALSE	
取得可能値	設定値	
初期値	OMX_FALSE	
備考	値	説明
	OMX_TRUE	LFE(Low Frequency Effects)チャンネル有効
	OMX_FALSE	LFE(Low Frequency Effects)チャンネル無効
	bLfeMode が OMX_TRUE の場合、「Figure 3-7」の 6 チャンネル出力フォーマットになります。	

eDualMonoMode

設定可能値	OMXR_MC_AUDIO_DD_DualMonoModeBoth OMXR_MC_AUDIO_DD_DualMonoModeChannel1 OMXR_MC_AUDIO_DD_DualMonoModeChannel2 OMXR_MC_AUDIO_DD_DualMonoModeMix	
取得可能値	設定値	
初期値	OMXR_MC_AUDIO_DD_DualMonoModeBoth	
備考	値	内容
	OMXR_MC_AUDIO_DD_DualMonoModeBoth	チャンネル 1,2 を両方出力
	OMXR_MC_AUDIO_DD_DualMonoModeChannel1	チャンネル 1 を出力
	OMXR_MC_AUDIO_DD_DualMonoModeChannel2	チャンネル 2 を出力
	OMXR_MC_AUDIO_DD_DualMonoModeMix	チャンネル 1,2 を Mix して出力
	本設定は入力ストリームデータがデュアルモノラルの場合に限り有効です。	

nDynamicRangeScaleFactorHi

設定可能値	0x00000000 ~ 0x7FFFFFFF	
取得可能値	設定値	
初期値	0x00000000	
備考	ダイナミックレンジの cut scale factor を指定します。 0.0 ~ 1.0 の範囲を 0x00000000 ~ 0x7FFFFFFF で設定してください。 設定値 = scale factor(0.0~1.0) x 0x80000000 ただし、1.0 の設定値は 0x7FFFFFFF 0.0(0x00000000)の場合はコンプレッションを無効にします。 なお、eCompressionMode が OMXR_MC_AUDIO_DD_RF の場合、本設定は無効です。	

nDynamicRangeScaleFactorLow

設定可能値	0x00000000 ~ 0x7FFFFFFF
取得可能値	設定値
初期値	0x00000000
備考	<p>ダイナミックレンジの boost scale factor を指定します。</p> <p>0.0 ~ 1.0 の範囲を 0x00000000 ~ 0x7FFFFFFF で設定してください。</p> <p>設定値 = scale factor(0.0~1.0) x 0x80000000</p> <p>ただし、1.0 の設定値は 0x7FFFFFFF</p> <p>0.0(0x00000000)の場合はコンプレッションを無効にします。</p> <p>なお、eCompressionMode が OMXR_MC_AUDIO_DD_RF の場合、本設定は無効です。</p>

6.4. OMX_AUDIO_PARAM_PCMMODETYPE

【構造体】 関連文書[3] 4.1.7 を参照してください。

【機能】 関連文書[3] 4.1.7 を参照してください。

メンバ名	Get	Set
nSize	W	W
nVersion	R	-
nPortIndex	W	W
nChannels	R	W
eNumData	R	-
eEndian	R	-
bInterleaved	R	-
nBitPerSample	R	-
nSamplingRate	R	W
ePCMMMode	R	-
eChannelMapping	R	W

【詳細】

nSize

設定可能値	OMX_AUDIO_PARAM_PCMMODETYPE 構造体のサイズ (バイト)
取得可能値	-
初期値	-
備考	-

nVersion

設定可能値	-
取得可能値	OpenMAX IL スペックバージョン(1.1.2)
初期値	OpenMAX IL スペックバージョン(1.1.2)
備考	-

nPortIndex

設定可能値	APB+1
取得可能値	-
初期値	-
備考	-

nChannels

設定可能値	1, 2, 6
取得可能値	設定値もしくはデコード結果
初期値	2
備考	本設定はデコード動作に影響を与えません。 LFE チャンネルを出力する場合、および 3 チャンネルから 5.1 チャンネルのデータを出力する場合、値は 6 になります。

eNumData

設定可能値	-
取得可能値	OMX_NumericalDataSigned
初期値	OMX_NumericalDataSigned
備考	このパラメータは非対応です。

eEndian

設定可能値	-
取得可能値	OMX_EndianLittle
初期値	OMX_EndianLittle
備考	このパラメータは非対応です。

bInterleaved

設定可能値	-
取得可能値	OMX_TRUE
初期値	OMX_TRUE
備考	このパラメータは非対応です。

nBitPerSample

設定可能値	-
取得可能値	16
初期値	16
備考	このパラメータは非対応です。

nSamplingRate

設定可能値	32000, 44100, 48000
取得可能値	設定値もしくはデコード結果
初期値	48000
備考	本設定はデコード動作に影響を与えません。

ePCMMMode

設定可能値	-
取得可能値	OMX_AUDIO_PCMMModeLinear
初期値	OMX_AUDIO_PCMMModeLinear
備考	このパラメータは非対応です。

eChannelMapping

設定可能値	OMX_AUDIO_ChannelNone OMX_AUDIO_ChannelLF OMX_AUDIO_ChannelRF OMX_AUDIO_ChannelCF OMX_AUDIO_ChannelLFE OMX_AUDIO_ChannelLS OMX_AUDIO_ChannelRS							
取得可能値	設定値もしくはデコード結果							
初期値	eChannelMapping[0]= OMX_AUDIO_ChannelLF eChannelMapping[1]= OMX_AUDIO_ChannelRF							
備考	本設定はデコード動作に影響を与えません。 出力データのチャンネルと nChannels、eChannelMapping の関係は以下の通りです。							
	出力チャンネル	nCannels	eChannelMapping					
			0	1	2	3	4	5
	1ch	1	CF	-	-	-	-	-
	2ch(stereo)	2	LF	RF	-	-	-	-
	2ch(dual mono)	2	CF	CF	-	-	-	-
	6ch(1/0)	6	None	None	CF	(LFE)	None	None
	6ch(2/0)	6	LF	RF	None	(LFE)	None	None
	6ch(1+1)	6	CF	CF	None	(LFE)	None	None
	6ch(3/0)	6	LF	RF	CF	(LFE)	None	None
	6ch(2/2)	6	LF	RF	None	(LFE)	LS	RS
	6ch(3/2)	6	LF	RF	CF	(LFE)	LS	RS

6.5. 構造体のメンバの中で特有の使い方をするもの

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントにおいて、構造体のメンバの中で、特有の使い方をするものについて「Table 6-2」に示します。

Table 6-2 構造体のメンバの中で特有の使い方をするもの

構造体名	メンバ	使い方
OMX_BUFFERHEADERTYPE (関連文書[1] 5.1.1 章参照)	nOffset	未対応です。0 を設定してください。
	nTickCount	OMX_EmptyThisbuffer()で入力する OMX_BUFFERHEADERTYPE 構造体に、任意の値を設定できます。ここに設定した値は、(*FillBufferDone)()コールバック関数で返却される OMX_BUFFERHEADERTYPE 構造体のメンバにコピーされます。
	nTimeStamp	OMX_EmptyThisbuffer()で入力する OMX_BUFFERHEADERTYPE 構造体に、任意の値を設定できます。ここに設定した値から、出力データ情報を用いて計算を行い、(*FillBufferDone)()コールバック関数で返却される OMX_BUFFERHEADERTYPE 構造体のメンバに値が設定されます。
	nFlags	「6.5.1 項」を参照してください。

6.5.1. バッファフラグ(nFlags)

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントのバッファフラグ (OMX_BUFFERHEADERTYPE 構造体の nFlags) の対応について示します。

Table 6-3 入出力ポートのバッファフラグ

フラグ名 (nFlags)	対応について
OMX_BUFFERFLAG_EOS	関連文書[2]に示すとおり、使用できます。
OMX_BUFFERFLAG_STARTTIME	入力バッファに設定されたフラグを、関連する出力バッファに伝達しますが、メディアコンポーネントの処理には影響しません。
OMX_BUFFERFLAG_DECODEONLY	
OMX_BUFFERFLAG_DATACORRUPT	入力されたストリームにエラーが含まれていた場合に、出力バッファに付加します。このフラグが付加されてきた場合は、出力バッファには無音データ入っている可能性があります。
OMX_BUFFERFLAG_ENDOFFRAME	入力バッファに設定されたフラグを、関連する出力バッファに伝達しますが、メディアコンポーネントの処理には影響しません。
OMX_BUFFERFLAG_SYNCFRAME	
OMX_BUFFERFLAG_EXTRADATA	
OMX_BUFFERFLAG_CODECCONFIG	

7. イベント

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントで発生するイベントの中で、特有の条件があるものを「Table 7-1」に示します。

Table 7-1 イベント発生条件

イベントタイプ	ポート	条件
OMX_EventPortSettingsChanged	APB+0	イベントは発生しません。
	APB+1	デコード動作を行い、OMX_AUDIO_PARAM_PCMMODETYPE 構造体のメンバ nChannels, nSamplingRate, eChannelMapping が内部で変更された場合にイベントが発生します。

なお、OMXR_MC_IndexParamAudioOutputUnit インデックス で OMXR_MC_AUDIO_UnitFull を設定し、OMX_AUDIO_PARAM_PCMMODETYPE 構造体のメンバ nChannels, nSamplingRate, eChannelMapping が Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネント内部で変更された場合、バッファサイズに満たないサイズのバッファが返却されることがあります。

OMX_EventPortSettingChanged イベントは、イベントの発生を抑制することができます。Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントがマスク可能な情報を「Table 7-2」に示します。

Table 7-2 マスク可能な情報一覧

情報	マスク値
nSamplingRate	OMXR_MC_AUDIO_EVENTMASK_SAMPLINGRATE
nChannels	OMXR_MC_AUDIO_EVENTMASK_CHANNELS
eChannelMapping	OMXR_MC_AUDIO_EVENTMASK_CHANNELMAPPING

8. 使用メモリ

Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントが使用する主なメモリ領域の、サイズと用途および、OMX_PARAM_PORTDEFINITIONTYPE 構造体メンバ nBufferSize, nBufferCountActual, nBufferCountMin の値を「Table 8-1」に示します。

Table 8-1 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントが使用する主なメモリ

メモリ名	メモリサイズ (byte)			説明
入力バッファ (APB + 0)	OMX_PARAM_PORTDEFINITIONTYPE		値	入カストリームデータ格納用バッファ。 OMX_AllocateBuffer()で確保するメモリサイズになります。
	nBufferSize	最小サイズ	3840	
		デフォルトサイズ	8192	
		最大サイズ	8192	
	nBufferCountActual	最小バッファ数 (= nBufferCountMin)	1	
		デフォルトバッファ数	4	
		最大バッファ数	4	
出力バッファ (APB + 1)	OMX_PARAM_PORTDEFINITIONTYPE		値	出力 PCM データ格納用バッファ。 OMX_AllocateBuffer()で確保するメモリサイズになります。
	nBufferSize	最小サイズ	18432	
		デフォルトサイズ	32768	
		最大サイズ	32768	
	nBufferCountActual	最小バッファ数 (= nBufferCountMin)	1	
		デフォルトバッファ数	8	
		最大バッファ数	8	

*その他 Dolby(R) Digital デコーダ・メディアコンポーネントのコンテキスト領域、タスク通信用領域、内部ワーク領域が必要になります。

改訂記録	OMX メディアコンポーネント ユーザーズマニュアル Dolby(R) Digital デコーダ編
------	--

Rev.	Date	Description	
		Page	Summary
0.01	2014.1.14	—	新規作成
0.02	2014.2.20	26	8 章メモリ使用量に OMX_PARAM_PORTDEFINITIONTYPE の説明を追加
0.03	2014.6.3	—	誤記修正
		26	内部ワークバッファの説明を削除
0.10	2014.7.18	—	誤記修正
1.00	2014.10.10	—	正式版として発行

OMX メディアコンポーネント ユーザーズマニュアル
Dolby(R) Digital デコーダ編

発行年月日 2014 年 10 月 10 日 Rev. 1.00
発行 ルネサス エレクトロニクス株式会社

© 2014 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

OMX メディアコンポーネント ユーザーズマニュアル